

人を育み、まちを育む ～「人づくり日本一」を目指して～

令和4年1月5日 いわき市長 内田広之

<はじめに>

いわき市民の皆様、新年おめでとうございます。

皆様には、新春を健やかに迎えのことに、心よりお慶び申し上げます。

それでは、令和4年の年頭にあたり、私の決意と所信を述べさせていただきます。

<市役所が変わります！>

近年、自然災害やウイルス感染症といった危機事象が頻発しております。グリーン社会やスマート社会に代表されるように、世の中の仕組み・枠組みも大きく動き始めております。かねてよりの課題の人口減少や少子高齢化、若者の流出にも歯止めがかかりません。公共施設も一様に老朽化が進んでおります。

このような中であって、市民の皆様の暮らしの安全・安心、地域経済の維持・活性化、子育て・教育の推進などは着実に進めていくことが求められます。今、何か手を打たないと、早晚たちゆかなくなる。もう目の前に来ていると言っても過言ではありません。

私は、これらの諸課題にしっかりと対応し、柔軟で持続可能な行財政運営を確立します。そのため、3つの視点、つまり「最適化・効率化・公民連携」で、行財政運営の在り様を抜本的に変える、いわゆる構造改革を進めていきます。

具体的には、新年度を期して、副市長をトップとする「構造改革推進本部」を設置し改革を進めます。改革のテーマは「行政改革・人事改革・財政改革」の3項目であります。令和6年度までの3か年を集中改革期間とし、期間内に結果を出していきます。

私は、市長就任にあたり、市職員に対し「未来を創る改革のエンジンになってほしい。失敗を恐れず、どんどんチャレンジしてほしい。」と言いました。確かな未来をつかみとるためにも、行財政運営を、そして市役所を変えていきます。

<政策の基本的な考え方>

次に、私の政策の基本的な考え方について申し上げます。

これまでも申し上げてきましたが、私はすべての分野においてベースとなるのが「人づくり」だと考えております。予算には限りがあります。しかしながら、人の可能性には限界がありません。危機事象への対応をはじめ、教育、雇用、医療、福祉、農林水産業など、各分野を支える人の力を伸ばせば、無限大の力が発揮できると信じております。

これまでの25年間にわたる私の職業人生は「人づくり」に捧げてきました。人づくりが私の「一丁目一番地」です。文部科学省等で培った経験や人脈を惜しむことなく注ぎ込み、いわき市を「人づくり日本一」のまちにします。若者から高齢者まで、あらゆる世代が、いわきに魅力を感じ、いわきを誇りに思う。そんなまちを「人づくり」で実現します。

<喫緊の課題への対応>

このような考え方のもと、令和4年の主な取組みにつきまして、喫緊の課題への対応と中長期の課題への対応に分けて申し上げます。

喫緊の課題は、新型コロナウイルス感染症への対応であります。

昨年秋に、まん延防止等重点措置が解除されて以降、市内の感染状況は落ち着きをみせております。これもひとえに、市民の皆様、事業者の皆様が、日常生活において、基本的な感染症対策に取り組んでいただいているお蔭であると、改めて感謝を申し上げます。

私はこれまで、「ゆるやかなアクセル」と「確かなブレーキ」の両輪で感染症対策を進めてきました。

まず、感染拡大の防止を図る観点から、いち早くクラスター発生時の情報公表の考え方を示しました。3回目のワクチン接種も始めています。原則として8か月を経過した方からですが、国の方針に基づき、できる限り前倒しして、進めていきます。さらに、体制強化を図る観点から、部長職である「感染症対策監」を新設します。

一方、感染症の影響により、飲食業や観光業などが疲弊し、まちの活力の低下が懸念されます。昨年末には、国が経済対策として大型の補正予算を成立させました。これを最大限に活用し、市民・事業者の皆様への支援に取り組んでいきます。

アフターコロナを見据え、インバウンドも含めた交流人口の拡大、地域の活性化も積極的に推進していきます。そのための体制を充実・強化する観点から、観光・文化・スポーツ分野の連携をより強固なものとするため、「観光文化スポーツ部」を4月に設置いたします。

新たな変異株も世界中にまん延しつつあります。引き続き、気を緩めることなく、万全の対策を講じながら、コロナ禍を乗り越えていきます。

<中長期の課題への対応>

次に、中長期を見据えた課題への対応です。5つの柱に沿って、新たに取り組んでいくことを中心に申し上げます。

1 まちの魅力を高めます！

1つ目の柱は、「まちの魅力を高めること」であります。

人づくりの基盤は学力です。人づくり日本一と学力日本一に向けて、児童生徒の学力向上策を強化します。そのため、学力調査の結果分析や学校指導体制を強化する「学力向上チーム」を新年度に設置します。

教育環境の充実に向け、市内の小中学校には、1人1台のタブレット端末が配備されています。これを活用し、教職員が子どもたち一人ひとりに向き合い、コンピュータとの分業で子どもたちの知的好奇心を育てていく。その子に合った教育、いわゆる「学びの個別最適化」を通じて、学力の底上げを図っていきます。特別支援教育においても、発達障がいの可能性のある子どもを含め、障がいのあるすべての子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、さらに充実させていきます。

一人ひとりが個性を花開かせる。希望と自信に満ち溢れ、自らの人生を切り拓いていく。そして、ふるさとを大切に思う。そんな子どもたちが、やがては、いわきの内外から「ふるさといわき」を支える人材となって活躍できるようなまちを目指していきます。具体的

には、いわき志塾や生徒会サミット、いわきアカデミアなど、本市独自の人材育成プログラムを「志プロジェクト」として充実させていきます。

雇用も重要であります。若者にとって魅力的なまちとなるためには、働く場をいかに確保していくかが鍵となります。学んだ後、そのまま地元に残って働く。あるいは、首都圏で学んだり働いたりしても、地元に戻って働き、暮らしたくなる。そんなまちを目指していきます。

現在、国において大きなプロジェクトが展開されています。そのうち、国際教育研究拠点は、世界レベルの学術拠点を浜通りに設置するのものであります。昨年、国が運営形態の方向性を示しました。具体的な機能などが今後、議論されていきますので、本市が持つ産業基盤や学術基盤、国際的人材、生活基盤などの強みを、私自らが国に対して訴えかけていきます。脱炭素社会の実現を目指す国家プロジェクトもあります。いずれも、浜通り地域全体の復興を目指していくという視点で、本市との結びつきが確かなものとなるよう、働きかけていきます。

スポーツを軸とした地域魅力の創出にも力を入れていきます。

「いわきFC」が念願のJリーグ入りを果たしました。私も、熱烈なファンの一人であり、人を呼び込み、経済の好循環を生み出し、そして、市民の誇りや一体感を醸成する。そんなプロスポーツクラブがまさに今、誕生いたしました。さらなる躍進を支える舞台として、いわきグリーンフィールドをJ3対応に改修する方向で検討を進めていきます。

自転車走る環境も整えてきました。県等と連携し、「復興サイクリングロード いわき七浜海道」の延伸によるナショナルサイクルルートの指定、中山間地域でのサイクルツーリズムにも取り組んでいきます。

2 命を守ります！

2つ目の柱は、「命を守ること」であります。

度重なる災害で、本市では多くの尊い命が失われました。こうした過去の災害の経験を教訓とし、これまで以上に防災・減災に力を入れていきます。

防災の基本は「自助・共助・公助」の力を結集することにあります。まず、共助の担い手となる自主防災組織を充実強化します。防災士のさらなる養成や災害時の協力体制の構築も進めます。

また、避難する際に支援を必要とする方の確実な避難体制を確立していきます。広域都市の特徴を生かし、地域を越えた相互支援体制の構築も検討していきます。子どもたちへの防災教育も重要であります。

市民一丸となって災害を乗り越えるという文化を育み、「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」の危機管理モデル都市を目指していきます。

医師不足への対応も待ったなしであります。医師会や病院協議会などと連携し、「いわき市医療構想会議」を去る12月に設置しました。診療科ごとに不足している医師の数を明確にし、そのうえで、数値目標を立て、計画的・長期的な視点で医師確保に取り組んでいきます。

医療人材の育成も必要です。子どもころから、医師の仕事に興味・関心を持ち、やりがいを感じていただくための仕掛けづくりをしていきます。具体的には、高校生までを対象として、現場で働く医師との懇談や、医療現場での体験学習の機会を新たに設けていき

ます。

医療を守るためにも健康づくりが重要です。本市の健康に関する指標は、高血圧や肥満割合が高く、一様に厳しいものがあります。同時に、健康診断の受診率も低く、意識の高まりが必要です。ICTの活用や企業・団体との連携強化などにより、健康長寿につながる取組みを進めていきます。

3 暮らしを守ります！

3つ目の柱は、「暮らしを守ること」であります。

本市出身のパラリンピック銀メダリストであります豊島さんとお話する機会がありました。いわき市はインクルーシブ、つまり健常者と障がい者が一緒に行う活動が、かなり進んでいるとの言葉をいただきました。さらなる取組みの充実を図りながら、誰一人取り残すことのない、多様な個性を認め合うまちづくりを進めていきます。

具体的な取組みをいくつか申し上げます。

従来分野別の福祉サービスでは対応しきれないような、複合的な生活課題への対応が求められています。ワンストップで相談を受けつつ、包括的な支援が可能となるよう、社会福祉協議会等の関係団体と連携して対応していきます。

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行うための仕組みとして展開している「いわきネウボラ」も、さらなる体制強化を図っていきます。相談体制の充実とともに、支援を必要とする児童の見守りを強化していきます。不妊治療の保険適用について、国が制度設計を進めています。これに呼応し、不妊や不育でお悩みの方の声を受け止める体制を充実していきます。

子育て世帯の負担軽減を図る取組みも重要であります。そのため、インフルエンザの予防接種費用を新年度から助成いたします。さらなる負担軽減の取組みについても、どのような支援策が可能であるか、検討を深めていきます。

国がアルプス処理水の海洋放出の方針を示したことにより、風評被害がさらに上乗せされております。科学的根拠を分かりやすく、丁寧に説明し、国民や関係者の理解を得ることに全力を尽くすよう、引き続き、国及び東京電力に対し、強く求めていきます。

4 地域を元気にします！

4つ目の柱は、「地域を元気にすること」であります。

中山間地域や沿岸地域を支える基幹産業は第1次産業であります。本市の農林水産業は、いずれも高齢化や担い手不足が顕著であり、しっかりと次世代に引き継いでいくことが必要であります。農林水産業分野で策定中の新たな計画に基づき、関係団体等と連携して、担い手の確保・育成に取り組めます。

平成31年4月に開設された福島大学食農学類との連携は、本市農業振興において大変重要なものであります。全国でも有数の教授陣が集まり、学生たちも意欲に満ち溢れております。具体的な取組みの構築に向けて、現在、大学と協議をさせていただいております。大学と連携し、新年度を期して、本市の農業の未来を切り拓くスタートを切っていきます。

中山間地域では、8名の地域おこし協力隊が元気に頑張ってくれています。川前、遠野、田人地区において、それぞれの地域の強みを生かした取組みを進めています。今後、配置を予定している小川や三和地区も含め、地域外から斬新な視点と熱意を持つまちづくりの

担い手を結集し、持続可能な中山間地域をつくりあげていきます。

現在、常磐地区・四倉地区において、市街地再生整備の取組みを進めております。それぞれ地区ごとに、課題や特性に応じて、どのようなまちを目指していくのかについて、地域の方々と膝詰めでお話をさせていただいております。具体的な取組みを定める基本計画は新年度早期に策定します。

いわきを舞台とした映画「フラ・フラダンス」が公開されています。アフターコロナにおける本市観光復活の鍵の一つはフラ・温泉です。「フラシティ・いわき」ならではの魅力を、全国に向けて発信していきます。

5 未来を先取りします！

最後に、5つ目の柱は、「未来を先取りすること」であります。

大きく2点、申し上げます。まず、1点目はグリーン社会の構築、つまり脱炭素の取組みであります。

国は2050年までに、温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという、いわゆるカーボンニュートラルの方針を打ち出しました。本市は、地勢や気候に恵まれているという背景から、これまで太陽光や風力、水素、バッテリーなど、次世代エネルギー利活用を積極的に進めてきました。小名浜港は国のカーボンニュートラルポートの検討対象となっております。本市は脱炭素において、国内でも有数の先行地域であり、これらの取組みをさらに加速化していきます。

具体的には、新年度から、ゼロカーボンドライブセット、つまり太陽光発電と電気自動車等を組み合わせた新たな取組みを促進すべく、助成制度を創設いたします。風力発電を担う人材を育成する認証システムも全国に先駆けて進めていきます。

2点目は、Society5.0の推進であります。コロナ禍を契機として、社会全体のデジタル化が加速しました。日々の暮らしにAIやIoTなどの次世代技術を取り入れることで、生活の質を高めていく必要があります。

具体的には、新しい社会の基盤となるデータ活用の仕組みづくりを、官民連携で進めていきます。コロナ禍における新しい生活様式の定着にもつながるよう、子どもたちの見守りや、健康相談などに新たな技術を活用していきます。交通課題を解消するため、カーシェアリングやMaaS等、先端技術を活用した次世代交通システムを構築していきます。

行政内部のデジタル化も急務です。社会全体から見ても、行政のデジタル化は遅れが顕著であり、デジタル庁の設置など、国を挙げた取組みが進んでいます。行政サービスの向上や業務の効率化につなげるため、着実に行政DX、デジタルトランスフォーメーションを推進していきます。

<結びに>

以上、令和4年の市政運営にあたり、その考え方を申し上げます。

「過ちで改めざる これを過ちという」。論語の一節であります。失敗は、時に大いなる成功の糧となります。一番避けなければならないのは「過ちを恐れ、何もしないこと」。これは大いなる過ちであります。

冒頭に「市役所を変える」と申し上げます。様々な改革に挑戦してまいります。市民の皆様、事業者の皆様にとって、いいことばかりとは限りません。痛みや苦しみの先に何

があるのかをしっかりとお示ししつつ、共に歩んでまいります。

そのためにも、皆様の声をしっかりと受け止めてまいります。地域に赴き、地域の薫りや息吹を感じながら、共に汗をかき、いわきの未来を考えてまいります。未来を支える若い方々の声も大切にしております。若者と集い、その声に耳を傾け、議論を交わし、いわきの未来をつくってまいります。

先行きが不透明な時代ではありますが、それを乗り越え、飛躍していく可能性がいわきにはあります。私は、そう信じてやみません。「まちづくりは人づくり」と申します。ふるさとといわきを「人づくり日本一」のまちにし、未来に向かって躍動していく。これが年頭にあたっての、私の決意であります。

結びになりますが、引き続き、全身全霊を傾けて、市政運営に邁進してまいります。コロナ禍を乗り越え、皆様にとって希望の光が見える年となることを祈念いたしまして、私の年頭所感とさせていただきます。